

# 平和週間(8月4日~10日) 期間中のイベント

## 原爆パネル展

<場所>

サンレイクかすや 展示ホール  
JR長者原駅自由通路  
粕屋フォーラム



## 原爆パネル展の感想

~たくさんお寄せいただきました。一部をご紹介します。~

- はじめて原爆パネルをみました。とても、「ゾッ」とするような、写真がありました。これが本当に日本であったのかと、おもうと「こわくてこわくて」しかたがないです。なぜ「戦争なんてことをしたのか」と思います。とても考えさせられる写真でした。このような、写真をみせて下さり、ありがとうございます。
- 原爆が投下されたこの日が風化されないように次の世代に語り継ぐことが私たちの役目だと思いました。とても恐ろしく残忍な出来事を繰り返さないように平和な世の中を創っていきたいです。
- 太平洋戦争から77年たったこの原爆パネルを見てこう思いました。本当にこのようなことが起きたら私たちはすごくパニックになると思います。ロシアとウクライナが今もそのようなことが起きていると思うとなぜそのようなことをするのかと思いました。だから私はそんな戦争をするような大人にはなりたくないです。
- わたしはげんばくなどをたいけんしたことがないので、げんばくでなくなった人、いまもくるしんでいる人がたくさんいるのとそうぞうできました。

## 原爆投下の日に 黙とうを

8月6日と9日は、広島市と長崎市に原爆が投下された日です。粕屋町では原爆死没者の霊を慰め、世界の恒久平和を祈るため、原爆投下時刻にサイレンとお寺の鐘をならします。町民の皆様、原爆死没者慰霊のため、黙とうを捧げてください。

8月6日(日) 午前8時15分  
8月9日(水) 午前11時2分



## 粕屋フォーラム 平和週間コーナー

<場所>

粕屋フォーラム1F  
図書館

戦争や平和に関する本を紹介しています。  
ぜひお立ち寄りください。



# 第36回

# 粕屋町 平和週間

令和5年 8月4日~8月10日



世界の恒久平和は、全人類の願いであり、世界唯一の原爆被爆国である日本は、核兵器の廃絶と全面軍縮を世界に訴え続けていかなければなりません。

粕屋町では「核兵器廃絶と恒久平和宣言」の町として、8月4日から10日までの1週間を「粕屋町平和週間」とし、戦没者や原爆死没者のご冥福をお祈りするとともに、核兵器の恐ろしさや戦争の悲惨さを語り継ぎ、二度とこの過ちを繰り返さないよう町民みなで平和について考え、平和に貢献するため次の行事を実施いたします。町民の皆様のご参加、ご協力をお願いいたします。

# 子どもたちの明日のため 受け継ごう 平和への願い、粕屋から

## 長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典 令和4年8月9日

例年、粕屋町在住の小学5年生とその保護者へ親子参加を募集し、平和祈念式典に参列しております。令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、親子参加者はいませんでした。平和研修のため粕屋町新規採用職員が平和祈念式典に参列しました。

式典では、原爆投下時刻に平和の鐘が鳴り響く中、犠牲者の冥福を祈り黙とうが捧げられました。また、長崎市長の「長崎平和宣言」、被爆者代表の「平和への誓い」が、核兵器のない世界の実現を願い、全世界に向け、力強く発せられました。

粕屋町でも毎年、原爆死没者慰霊と世界の恒久平和を祈るため、原爆投下時刻に黙とうを捧げています。



粕屋町新規採用職員  
R4年度平和式典に参列しました。



長崎原爆資料館を見学しました。写真は被爆した浦上天主堂側壁(再現造型)です。

## 粕屋町職員の平和への決意

粕屋町では、第5次粕屋町総合計画後期基本計画の中で持続可能な開発目標(SDGs)の1つである「平和と公正をすべての人に」の考えを取り入れ、人権と平和を尊重し合う地域社会の確立のため、平和の尊さを次世代に継承する取り組みの推進を明記しています。

その取り組みのひとつとして、平和への願いを若い世代に引き継ぐため、粕屋町新規採用職員が、「粕屋町職員としての平和に対する決意」というテーマでレポートを作成しました。そのレポートの一部を掲載します。

- 私は、長崎での平和記念式典への参加を通して、当時の記憶の継承の難しさを実感しました。当時を知る人々の高齢化及び減少、そして戦争を経験していない世代の関心の薄れなどがそれに拍車をかけていると考えました。このことから、私たちには当時を知る人々に代わって後世に伝える役割を担い、核兵器について熟考する機会を作ることが求められていると考えました。(田中 大貴)
- 戦後から長い年月が経ち、被爆者の実際の声をきくことは難しくなってきました。そのようななかで、長崎平和祈念式典への参加はとても貴重な体験となった。誰もが平和に安心して生活するために、戦争の悲惨さ、平和の尊さを後世に語り継いで戦争を風化させないようにしたい。(松永 今日子)
- 「広島が世界最初の被爆地であることは今後変わらないが、長崎が世界最後の被爆地であり続けるためには、かなりの努力が必要である」原爆問題に関して、幾度となく言われ続けている言葉です。平和祈念式典に参列し、「平和は自分たちが取り組むべき問題」だと、改めて考えました。私は現在、粕屋町の平和事業を担当しているので、平和祈念式典で得た学びを、来年度の粕屋町平和週間へと繋げていきたいです。(吉田 菜穂)

- 何千万人のも人々が命を落とした戦争を再び繰り返さないためにも、私たちが戦争の歴史をしっかりと学び、語り継がなければいけません。戦争で罪のない人々が大勢亡くなった事実をしっかりと受け止め、戦争が起こらない平和な日々がどんなに幸せなことなのかを、忘れないようにしていきたいです。(石丸 舞)
- 私たちはこの過ちを決して繰り返さないように、情報を発信し続ける義務があり、未来の世代へと語り継ぎ、戦争を風化させないことが必要であると考えます。また今、私たちが平穏な生活を過ごしていることは当たり前のことではなく、様々な犠牲の上で成り立っているものであることを心に刻み、平和に向けて働きかけていきたいです。(伊藤 賢生)
- 日本は、世界で唯一の被爆国として、戦争の悲惨さを伝えていますが、現在も争いが起きており、一瞬で平和な世界が崩れていく様子を見て、悲しみと不安でいっぱいになりました。世界中の人々がこのような思いをしないうるためにも、一人一人の平和への意識が大切です。粕屋町職員として、次世代へ平和の尊さを受け継ぎ、私自身も学びを深めたいと思います。(横山 慎)
- 世界各地で起こる戦争や核兵器使用のニュースを見るたび、改めて戦争と長崎・広島原爆の歴史を次の世代に語り継いでいくことの大切さを感じています。多くの被爆者、被戦争者の方々の高齢化が進んでいる中で、直接経験された方の声をしっかりと聞いて受け止め、次世代に繋げていく役割が私たちにはあると思います。(福澤 美菜子)
- 一人一人が戦争の恐ろしさや悲惨さを知り、平和について考え、後世に語り継いでいくことで平和の輪を広げていくことが大切だと思います。粕屋町職員として平和週間等を通して、戦争や平和について考えるきっかけを作り続けるとともに、私自身も戦争の歴史を忘れず、平和への想いを失うことのないようにしていきたいです。(福野 凪)

